

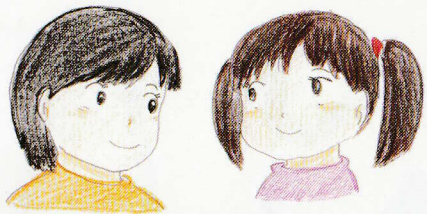


# わたしにできること





# わたしにできること



わたしと夕子は、ようちえんのころからなかよし。学校の休み時間には、いっしょにおにごっこをしたり、おりがみを作ったり。「二年生でも同じクラスになれてよかったね。」って、二人でよろこんでいた。

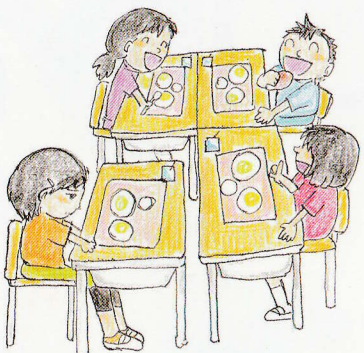
でも、せきがえをしてから、夕子の元気がないみたい。休み時間になると、ひとりどこかへ行ってしまふ。夕子のとくいな算数も、いつもなら手をあげてはっぴようするのに、下をむいたまま。何だか心ばいになってきた。

きゆう食のとき、夕子のはんを見ると、夕子をつくえだけが、はんのみんなから少しはなれているのに気がついた。はんのみんなは、楽しそうに話をしているのに、夕子はだまってさびしそうに食べている。そういえば、はんでプリントをあつめるときも、夕子のことをむしして、自分たちのものだけあつめていた。

ひる休み、一人でろうかのすみにいる夕子を見つけた。

「いっしょにあそぼうよ。」

声をかけたけれど、



「うん……。」

と言ったまま、夕子はだまっている。手には、じゅうちようをもっている。

「今日は、おえかきにする？」

わたしのことを聞くとき、夕子はぼろぼろと

なみだをながしはじめた。

「どうしたの？」

夕子はそっとわたしにじゅうちようを見せてくれた。

そこには、夕子のものではない字で、人に言っではいけないことばが、たくさん書かれていた。

わたしは、じゅうちようをとじると、夕子の手をぎゅつとにぎりしめた。そして、夕子の

ために何ができるのか、考えはじめた……。



■作成委員

貴志 祐子 (富士見市教育相談室 専任相談員)  
金子 裕美 (関沢小学校 教諭)  
中村 ひかる (勝瀬小学校 教諭)  
新井 美沙枝 (水谷東小学校 教諭)  
竹内 千尋 (西中学校 教諭)  
保坂 孝平 (勝瀬中学校 教諭)  
小峰 夏子 (諏訪小学校 教諭) 【挿絵】

■事務局

後藤 輝明 (富士見市教育委員会 学校教育課 指導主事)

■発行

富士見市教育委員会 平成三十年三月



